

【①表現内容－B：表現材料】

■デジタルに対抗

－アナログな写真感光素材－

ある年齢層の方には「日光写真」と言ったらわかりやすいだろう。製図を描く方ならば「青焼き」と言ったらイメージできる。光に反応する感光紙のことである。

富士写真フィルムより販売されているコピーアートペーパーは1枚10円足らずでとても楽しめる。今日のPPC方式コピー機が現れるまでは、この青焼きがコピーの主流であった。

原理は、用紙にジアゾ化合物が塗布されており、紫外線が当たるとジアゾ基が脱離してしまう性質を利用している。紫外線が当たらない部分はそのままジアゾ基が残り、化学反応で青色に変わるのである。化学反応を起こさせる薬品はマイクロカプセルに仕込まれ紙に塗布されており、熱で反応するようにできている。したがって、現像は至って簡単であり、アイロンをかければよい。

さて、このコピーアートペーパーを使って何ができるかであるが、まずはフォトグラムである。フォトグラムといえばマン・レイやモホリ・ナジが有名である（マン・レイは「レイヨグラム」と呼んでいる）。日本では瑛久がフォトデッサンとして多数製作している。

例えば、木の葉を載せて感光したり、影を写し取ったりするのがおもしろい（直射日光で10秒程度）。フォトグラムは小学生低学年から大人まで十分に楽しめる題材である。私は虫眼鏡と段ボールでカメラを作り、写真のフィルムの代わりに使っている。



フォトグラムを使った絵本づくり



段ボールカメラで撮影した作品

みさわかずみ  
(三澤一実：武蔵野美術大学教授)